様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月　５ 日現在

機関番号：１７７０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ０２２０９

研究課題名（和文）離島へき地地域における地域包括的心理支援システムの案出

研究課題名（英文）Development of mental health services in rural and remote areas

研究代表者
高橋　佳代（Takahashi, Kayo）

鹿児島大学・法文教育学域臨床心理学系・准教授

研究者番号：９０６１６４６８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：(1)離島における発達支援の特徴の把握と支援体制の構築：離島地域の子育ての強みとして共同子育て文化、課題として障害や疾患に関する偏見の存在や専門的支援の不足などが示された。これを踏まえ、地域のヘルスリテラシーの向上と専門性の向上を目指した離島の発達支援モデルの提示を行なった。成果を3本の論文と報告書にまとめた。
(2)地域のヘルスリテラシーのへの寄与：自治体との連携により市内全中学校でのストレスマネジメント教育を実施し効果を検証した。呼吸法や動作法を活用し、講座内で自己弛緩体験を行うことで1回での実施でストレス低減やストレスへの理解の向上が確認された。成果を2本の論文にまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
(1)心理支援にアクセスしにくい地域における支援体制モデルの構築：地域に根付く子育て環境などの強みを活かし、専門的支援等補強すべきものをオンラインも活用しながら充実化させる発達支援モデルの提示を行った。日本の人口は都市集中であり、国土の約6割が過疎地域である。本研究で得られた知見は、全国各地にある過疎地域の発達支援モデルとしても援用可能でるという意味でも意義がある。
(2)新しいストレスマネジメント展開：ストレスマネジメントによりストレス低減等の効果が示された。オンラインを活用することにより、継続的で新しいストレスマネジメント教育のあり方を検討することが可能となった。

研究成果の概要（英文）：(1) Understanding the characteristics of the developmental support environment on remote islands and building a support system: The study showed that the culture of communal parenting is a strength, while the existence of prejudice regarding disabilities and diseases and the lack of professional support are challenges of childrearing in remote island regions. Based on this, we proposed a developmental support model for remote islands, aiming to improve local health literacy and expertise. The results were published in three papers and a report.
(2) Contribution to local health literacy: Stress management education was conducted in all junior high schools in the city in cooperation with the local government, and its effectiveness was verified. The results showed that stress reduction and understanding of stress improved after only one session, utilizing breathing method and Dohsa-hou. The results were published in two papers.

研究分野：臨床心理学

キーワード：発達支援　地域支援　離島支援　支援者支援　メンタルヘルス　ストレスマネジメント

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

発達障害のある人の支援にあたっては、それぞれのライフステージにあった適切な支援が切れ目なく提供されることが重要である。時には多様化・複雑化する子どもと家族のニーズに対応するためには専門家が寄り添いながら支援を行う必要があるが、発達障害の支援拠点や高度な専門機関は都市部に集中しているのが現状である。日本は島嶼国であり、258 島に約 43 万人が暮らしている。離島では発達支援を行う医療機関や福祉機関は限られており、発達検査の受検や専門相談等が受けられる機会は本土に比べると極めて少ない。このような離島で育つ子どもとその家族の発達支援専門的サービスへのアクセシビリティの低さをいかに補完していくのかを検討することは、すべての子どもの健全育成を目指すという観点からも極めて重要な視点である。

離島の子育ては、外遊びの充実や元気なお年寄りの存在、つながりの強い地域共同体による子育てなど、独自の強みも指摘されている。発達支援においても、不足しているものを補強しながも、地域の持つサポート資源や強みを活かし活用することが、継続可能で子どもと家族に身近な支援ネットワークの構築につながるものと考えらえる。また、発達支援においては、地域との連携やインクルージョンの視点が重要である。地域全体の健康や障害、メンタルヘルスに関する理解を向上させていく必要がある。

２．研究の目的

本研究の目的は、すべての子どもの健全育成を目指すという観点から、離島の子育て環境の特徴を整理し、専門的資源が少ない離島地域で対応可能な発達支援モデルを提示することである。具体的な研究目標は下記 3 点である。

(1) 離島の子育ての特徴、強みと課題を整理すること。

(2) 離島にある相談支援環境を活かし、不足するものをオンライン等で補強する、継続可能な離島における発達支援モデルを提案すること。

(3) 地域全体の健康やメンタルヘルスに関する理解を向上させるコミュニティアプローチを実施し、その効果を検証すること。

３．研究の方法

(1)離島子育ての強みと課題の検討

質問紙調査：離島地域の子どもの発達支援に関わる福祉及び教育関係者に離島特有の子育ての強みと発達支援上の課題及び発達支援ニーズについて自由記述, 無記名で回答を求めた。

(2)離島における発達支援ネットワークの構築

実践の評価：離島地域の福祉・教育領域の支援者を対象にした研修会や事例検討会をオンラインで実施し、実践の効果を検証した。支援者の専門性の向上と地域における他機関連携を強化するシステム作りにおける効果を検証した上で、離島における発達支援のあり方について考察した。

(3)地域全体への働きかけとしてのストレスマネジメント講座の効果検証

介入研究の評価 : 単回 50 分のストレスマネジメント講座を開発した。短時間で十分な効果を得るため、講座内で呼吸法や臨床動作法を用いたリラクセーションを実施し、自己弛緩体験を提供することとした。講座前後でのストレス反応を測定し、効果を検証した。

４．研究成果

(1)離島における子育ての強みと課題の検討

回答者の 96%が離島特有の子育ての強みを感じていることが示された。強みとして、地域の強いつながりをベースとした地域ぐるみの温かい子育て環境や豊かな自然環境の中での外遊びの充実、活発な地域活動等があることが明らかとなった。他方、回答者の 78%が離島の子育てに特有の困難があることを示し、その内容として、地域の強いつながり故の匿名性やプライバシーの確保の困難さ、障害やメンタルヘルス上の問題に対する無理解や偏見の存在が明らかにされた。地域ぐるみの子育ての強みを活かしながら,発達支援を強化するには離島全体のヘルスリテラシーの向上が重要であることが考察された(髙橋・今村,2024)。

(2)離島における発達支援ネットワークの構築

離島地域の児童関係通所事業所の職員を対象に、オンラインの事例検討会および研修会を概ね２か月に 1 回の頻度で開催し、その評価を行った。支援者の学び合いと専門性の向上を狙うため、事例検討の際にはインシデントプロセス法を採用した。取り組みの評価のため、参加者に対して質問紙調査を実施した。その結果、高い有効感が示され、子どもの理解の向上や多角的な視点の獲得、日々の活動の改善点の発見や自身の技能の向上などが示された。このような定期的な協働研修の場がそれぞれが持つ専門性を分かち合い高め合う場としても機能し、それが、専門的資源が少ない離島においては発達支援を支える基盤になることが示された(髙橋ら,2023)。

(3)地域全体への働きかけとしてのストレスマネジメント講座の効果検証

地域自治体と連携し、市内全中学校でストレスマネジメント講座を実施した。生徒の様々な生徒指導上の課題に取り組むため、精神的負荷が高くなることが指摘されている中学 3 年生を対象に講座を実施し、講座前後でのストレス反応等を測定した。また講座後に講座での体験の感想を自由記述で求めた。検証の結果、ストレス理解の向上(93%)、生徒の講座への有用感の高さ(92%)等が示された。また、講座前後で生徒のストレス反応が有意に低減すること(今村ら,2024)やストレスマネジメントの今後の生活への活用意識が示され、これは講座内でリラクセーションを用いたことによる弛緩体験を踏まえたものであることが考察された(髙橋ら,2024)。

以上のように、本研究の実施により、離島における発達支援の強みと課題が整理され、それを踏まえた発達支援モデルが提案された。日本の人口は都市集中であり、市町村の半数近く、国土の約 6 割が過疎地域である。本研究で得られた知見は、全国各地にある過疎地域の発達支援モデルとしても援用可能であり、本研究が遂行された場合の社会への貢献も期待できる。また、地域への働きかけとして、地域自治体と連携したストレスマネジメント教育実践に取り組み、その効果を検証した。ストレスマネジメント教育が地域のヘルスリテラシー向上に寄与する有効な心理教育的なコミュニティアプローチであることが示された。

(引用文献)

髙橋佳代・今村智佳子・福﨑伸悟・大津敬(2023)離島の地域発達支援を支える遠隔ネットワーク, ,BioClinica38(8)61-64.／髙橋佳代・今村智佳子(2024)離島における子育ての強みと発達支援課題,地域ケアリング 26(4)43-47.／髙橋佳代ら (2024) 高校受験期におけるリラクセイションを用いたストレスマネジメントの効果と主観的体験.臨床心理学 24(4).印刷中／今村ら(2024)高校受験期におけるリラクセーションを用いたストレスマネジメント教育の効果,ストレスマネジメント研究 20(2)印刷中.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　6件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 髙橋佳代　今村智佳子　平田祐太朗	４．巻 23(4)
２．論文標題 新型コロナウイルス（COVID-19)感染対策下の生活における親子のメンタルヘルスの関連ー特別支援ニーズがある子どもに注目してー	５．発行年 2023年
３．雑誌名 臨床心理学	６．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Kayo Takahashi, Eiji Ozawa, Susumu Harizuka	４．巻 6(9)
２．論文標題 Impact of corporal punishment on victims’ future violent behavior in extracurricular sports	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Heliyon	６．最初と最後の頁 2-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.heliyon.2020.e04903	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 髙橋佳代、今村智佳子、福﨑伸悟、大津敬	４．巻 38(8)
２．論文標題 離島の地域発達支援を支える遠隔ネットワーク	５．発行年 2023年
３．雑誌名 BIO Clinica	６．最初と最後の頁 61-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 髙橋佳代・今村智佳子	４．巻 26（４）
２．論文標題 離島における子育ての強みと発達支援課題	５．発行年 2024年
３．雑誌名 地域ケアリング	６．最初と最後の頁 43 - 47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 髙橋佳代、今村智佳子、福﨑伸悟、大津敬	4．巻 25 (10)
2．論文標題 離島の発達支援を支えるオンライン支援者ネットワークの構築ーインシデント・プロセス法を用いた試みー	5．発行年 2023年
3．雑誌名 地域ケアリング	6．最初と最後の頁 86 - 89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 髙橋佳代・今村智佳子・石田裕菜・甲斐天翔・川添茜・雑敷孝博・中尾誠一・吉永明美・篠原美穂	4．巻 24(4)
2．論文標題 高校受験期におけるリラクセイションを用いたストレスマネジメントの効果と主観的体験	5．発行年 2024年
3．雑誌名 臨床心理学	6．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 今村智佳子・髙橋佳代・石田裕菜・甲斐天翔・川添茜・雑敷孝博・中尾誠一・吉永明美・篠原美穂	4．巻 20(2)
2．論文標題 高校受験期におけるリラクセーションを用いたストレスマネジメント教育の効果	5．発行年 2024年
3．雑誌名 ストレスマネジメント研究	6．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計3件

1．著者名 髙橋佳代・今村智佳子・平田祐太朗	4．発行年 2022年
2．出版社 斯文堂株式会社	5．総ページ数 24
3．書名 新型コロナ感染症拡大が子育て及び子どもの生活に与える影響に関する調査報告書（第2期：2021年8月）	

１．著者名 高橋佳代、今村智佳子、平田祐太朗	４．発行年 2020年
２．出版社 株式会社ジーエークレアス　キンコーズ	５．総ページ数 24
３．書名 新型コロナ感染症拡大が子育て及び子どもの生活に与える影響に関する調査報告書（第1期：2020年8月)科研報告書	

１．著者名 高橋佳代、今村智佳子、福﨑伸悟、大津敬	４．発行年 2023年
２．出版社 斯文堂株式会社	５．総ページ数 25
３．書名 離島の弱みを強みに変えていこう　「専門性向上に向けた継続」と「本音が言えるネットワークづくり」を目指して　インシデント・プロセス法を「用いた事例検討会の取り組み	

〔産業財産権〕

〔その他〕

鹿児島大学そだちサポートプロジェクト
https://sodasapo.jimdofree.com
そだちサポートプロジェクト
https://sodasapo.jimdofree.com

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	今村　智佳子 (Imamura Chikako) (80837237)	鹿児島大学・障害学生支援センター・特任助教 (17701)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関